平成 26 年度第 1 回 帯広市行財政改革推進市民委員会　議事要旨

日時：平成 26 年 7 月 4 日（金）午後 6 時 30 分～午後 8 時 10 分
場所：帯広市役所　10 階　第 6 会議室

■　出席委員

大竹委員、大野委員、河尻委員、木下委員、仙北谷委員、田中委員、千葉委員、本田委員、村上委員、山崎委員

■　説明員（事務局）

草森行政推進室長、中里行政推進室主幹、三浦行政推進室主任、藤内行政推進室主任補、中田行政推進室主任補

■　傍聴者等

報道関係者 1 名

■　次第

1　開会
2　議事
（1）帯広市行財政運営ビジョン平成 26 年度実施計画について（報告）
（2）帯広市行財政運営ビジョン実施計画の検証方法について（協議）
（3）その他
3　閉会

■　議事要旨

1　開会

【事務局】本日は、委員 10 名全員の委員が出席し、過半数に達しているので、帯広市行財政改革推進市民委員会設置要綱第 7 条第 2 項により、会議が成立していることを報告する。

次に、本日の会議資料について、会議次第と資料 1-1 から資料 2 までを事前にお届けし、ご持参いただいているが、ご確認願いたい。

これより、議事進行は、仙北谷委員長にお願いする。

2　議事

（1）帯広市行財政運営ビジョン平成 26 年度実施計画について（報告）

【委員長】それでは、引き続き、議事を進行させていただく。本日は、市から「帯広市行財政運営ビジョン平成 26 年度実施計画」について報告を受けるほか、「行財政運営ビジョン実施計画の検証方法」について説明を受け、協議をしたい。まず、「（1）帯広市行財政運営ビジョン平成 26 年度実施計画」について、事務局から説明願う。

（事務局から、資料 1-1～1-3 により、平成 26 年度実施計画について説明）

【委員長】ただいまの説明について、ご意見等があれば、ご発言願う。

【委　　員】資料 1-1 にある、定住自立圏や消防広域化など、周辺町村と連携していくとあるが、このことによって帯広市にとって何かメリットがあるのか知りたい。

【事務局】定住自立圏の推進について、そもそもの発想は、大都市への人口流出を、帯広市だけでなく、十勝全体で防いでいこう、というところにある。例えば、様々な施設についても、市町村がそれぞれその全てを備えていくことは困難である。そのため、十勝全体で協力し、連携して取り組みを進めていこうというもの。

【委　　員】人口流出を防ぐというが、帯広市だけでなく、十勝全体で見ても、現状、人口は減っているのでは。目に見えるメリットがないと、帯広市民は理解できない。

【委　　員】帯広市はよいと思ってやっていても、帯広市が中心となっていることについて、町村からの反発や温度差があるのではないか。形としては分かるが、実際に取組を進めていくのは大変なのでは。

【事務局】十勝圏域で人口を維持していくと言いながらも、各市町村がそれぞれ二地域居住であるとか、移住政策など競争しているという矛盾もあり、難しいところもあると思うが、形としては、オール十勝でやっていこうということ。

【委　　員】住民が、この定住自立圏によって、十勝全体がひとつになったんだ、と感じられるようなわかりやすいものがないと理解されないのでは。どのように住民にわかってもらうのか疑問がある。

【委員長】行革の効果として、帯広市としては出せても、十勝全体としてはなかなか出せないのでは。

【委　　員】帯広市の行革と言いつつ、定住自立圏で十勝全体で、といって帯広市民にメリットがわかってもらえるのか。

【委員長】消防、救急やごみ処理などの取り組みについては、町村のほうがメリットを感じているかもしれない。協力し合う部分と競争する部分をうまく使い分けてサービスをより良くしていくことが大切。ただ、これはまだ市町村の長が手をつないだ段階。取り組みはまだ始まったばかりであり、これから実際に働く人たちがどう動いて進めていくかである。

【委　　員】現段階では、行政レベルで協定を結んだという形になっているだけで、民間レベルではまだこれからだろう。これから、民間でも取り組みが広がっていくことが大切。同じ目的に向かって活動しているはずなのに、いつの間にか温度差が出てきたり、利害が対立してきたりする。しかしそれを乗り越えて、より大きな目標を目指してやっていく。地道な努力を積み重ねていかないと難しい。すべての町村で同じことをやろうとしても、それぞれの町の特徴によっては支持されるものとされないものがある。それを行政が的確に把握して、民間レベルでもこの取組の意義を理解してもらうか。まさにこれからだと思う。

【委員長】方向性としては間違っていないということでよいか。

【委　　員】市の施設も老朽化しており、同じ問題を周辺の町村も抱えている状況。将来的に、新たに施設を建設するとなったときに、どこに建てるか、市と周辺の町の間で調整が必要になってくるだろう。同じような施設があると無駄という考えと、（近隣町村にあっても）自分の住むところには（施設が）欲しいという考えがある。そういった議論がひとつひとつに出てくると思う。

【委員長】時間のかかるテーマだと思うが、時間をかけていい方向に進めていって欲しい。

【委　　員】マイナンバー制度について、心配されるのは、事故が起きた際のリスク管理の問題である。どういった措置を講じるのか、市民の不安にきちんとした説明で応える必要がある。

【事務局】マイナンバー制度が導入された後は、電算システムを利用して、マイナンバーそのものと、関係する分野・業務の個人情報を結び付けて扱うことになる。また、マイナンバーを使用して仕事をするシステムについては、「特定個人情報保護評価」といって、どのようなリスク管理がなされているか、きちんと評価を行い、その結果を公表することが法律で義務付けられる。今後、マイナンバー制度を市の業務に導入する中で、福祉や税などのシステムを制度に対応させていくことになるが、その前に、情報漏洩などのリスクに対して措置を講じているかどうかなどについて評価を行い、結果を公表する。システムの仕組み自体はなかなか理解してもらうのが難しい部分もあるが、個人情報の保護については、きちんと行っていく。

【委　　員】個人情報の漏洩の原因は結局のところ人である。今回、マイナンバーのシステムを構築するのに、どこかに外注をすると思うが、それは外部の人間が入るということであり、それ自体がリスクとなりうる。外部の者が関わることのリスク管理はできるのか。できなければ個人情報を守ることはできない。本来であれば全ての作業を帯広市役所の中で完結できればいいのである。ただ、それが困難なこともわかっている。そこのリスク管理をどのようにするのか、ということ。

【委員長】外注の際は、個人情報についてきちんと保護するといった契約を結んでいるのか。

【事務局】そこはきちんとやっている。それ以外にも、様々な観点から対策を講じていく。法律上も、まず、マイナンバーを利用する分野やケース、取り扱い者が限定されているなどの措置が講じられる。また、罰則についても、通常の個人情報漏洩などよりも強化されている。そういった様々な策を講じる中で、大切な個人情報を保護していく。

【委　　員】マイナンバー業務に関して、職員によるデータ使用履歴を監視するような専門職員が必要ではないか。市民の大切な個人情報を守るという観点から、その人件費は無駄ではないのでは。市民にも納得してもらえると思う。

【委　　員】アメリカではマイナンバー制度を導入済みと聞くが、個人情報漏洩の頻度はどうなっているか。

【事務局】頻度については不明だが、漏洩の事例はあると聞いている。

【委　　員】漏洩に関して、その頻度に関するデータがあるとイメージがしやすい。先進のセキュリティシステムを取り入れた場合、漏洩はどれくらいの頻度で起きるのか、データを示して欲しい。

【委員長】リスクの評価としては、事故が起こる割合や頻度で評価する場合と、実際起こった場合どれくらいの損害が発生するのかを評価する場合がある。割合としてはすごく小さくても、事故が起こったときの損害が甚大であればそれだけリスクは高いということになる。また、個人情報保護に関して契約を結んで終わりということではなくて、その後もきちんと監視できる仕組みをどのように構築するかが大切である。その仕組みづくりについて、市としてきちんと考えて欲しい。

【委　　員】定住自立圏やマイナンバー制度など、市の政策に関して、広報の中で「豆知識」といった形で、

ものすごくわかりやすく市民に伝える記事を毎月載せて欲しい。政策によるメリットやデメリット、財政的にどうか、など、お年寄りが読んでもわかるような内容の記事があればいいと思う。

（２）帯広市行財政運営ビジョン実施計画の検証方法について（協議）

【委員長】次に、「（２）帯広市行財政運営ビジョン実施計画の検証方法について」を議題とする。事務局から説明願う。

（事務局から、資料２により、実施計画の検証方法について説明）

【委員長】ただいまの説明について、こういったデータがあると議論しやすい、報告の仕方をこのようにして欲しい、といった意見があれば各委員よりお願いしたい。

【委　員】データだけでなく、実施前と後で比較したような表やグラフがあると見てわかりやすい。

【委　員】文字だけでは理解するのに非常に時間がかかる。図表があるとありがたい。

【委　員】詳細な説明が記載されたものと、わかりやすくまとめられたもの、二種類必要だろう。

【委　員】数字で表せるのであれば数字で表し、なぜそうなるのか、理由を細かく説明して欲しい。

【委　員】カタカナ用語ばかりではわかりにくい。

【委　員】会議資料としてでよいので、ビジョンの実施項目について、推進状況が良いもの、中くらいのもの、悪いものというカテゴリで並べることはできないか。

【事務局】計画どおりに進んだかどうか、方法が有効だったかどうか、という視点からまとめたいと考えている。計画どおりにいかなかった理由をわかりやすく示すことはできると考える。

「取組の成果」に成果指標を設けているものがあるが、その部分だけで進み具合を判断するのではない。総合計画のように点数化して評価する方法はとりにくいところがある。指標はひとつの目安にはなるが、それだけで推進状況を測り、並べるのは難しい。

これまでと違い、行革の目的は量から質へと転換しており、取り組みの結果を、数値化したデータでなく、改善点や向上点など、定性的な記述で示す部分があると思う。一律に点数化や順位付けは難しいと考える。

【委　員】取り組みが進んでいるものはよいが、推進状況があまりよくないものについては、やはり検証が必要。ただし時間も限られているため、大まかでもよいので推進状況についてわかりやすく表記することはできないか。

【委　員】進んでいる取組は○、あまり進んでいないものは△といった方法でもよい。

若い人たちには、ゲーム性も盛り込んだ、面白いアイデアのあるものでないと興味を持ってもらえない。

【委　員】定量化できるものと、難しいものとで分けて、できるものだけでもいいから並べて欲しい。

【事務局】当初の計画に対して実績はどうだったか、見せることのできるものは数字で示さなくてはいけないと考えている。

【委　　員】現場を見ておらず、背景もわからないものについて、誰かがまとめた書類だけを見て判断し、点数を付け評価するというのは難しい。現場の人の声が伝わってこない。担当者の言葉で伝えてくれた方が評価しやすい。そういった場があればいいのだが。

【委員長】現場の人間に出てきてもらうのはなかなか難しいだろうが、リアリティのある報告書であればより評価しやすい部分はあるので、報告書の作り方を工夫して欲しい。

【委員長】ほかになければ、各委員からいただいたご意見などを踏まえ、市のほうで検証作業の方法について、さらに詰めていって欲しい。

（３）その他

【委員長】最後に、「（３）その他」について、事務局から何かあるか。

【事務局】次回の会議については、8月下旬から9月上旬の間に開催したいと考えている。開催日程については調整後、改めてご連絡したい。

【委　　員】しっかりと議論・検証するためには、この委員会の開催頻度の見直しが必要ではないか。

【事務局】皆さんお忙しい中で、多くの資料を読んでご議論いただくことの大変さは理解している。市としては、資料を事前にお渡しする、主な取り組みを抽出してお示しする、論点・視点をお示しするなど、限られた頻度・時間の中でご意見をいただけるよう努力してまいりたい。

【委員長】この市民委員会のあり方も、将来的に考えていく必要が出てくるかもしれない。

【委　　員】アリバイづくりになってはいけない。市のほかの審議会も含めて、留意してほしい。

【委　　員】委員会で出た意見の反映状況などを、委員会でチェックできるようにしてほしい。

【委員長】ほかになければ、本日の会議は以上をもって終了する。

以上